



スタンドの観客やベンチでは白熱した試合を楽しそうに見守っていた



7回表にキレのある速球で12区の追撃を絶つ11区の千葉郁哉選手



7回2失点と好投した12区の佐々木一選手



同点のホームを目指す12区の鈴木諒選手



豪快なスイングをする12区の千葉智明選手



出塁する11区の首原貴史選手

8月15日、町営長島球場

決勝戦

12区 4 — 2 11区

12区	0	0	0	0	0	0	4	4
11区	0	0	2	0	0	0	0	2

▶ 投手…(12区)佐々木一 (11区)佐藤巧未→千葉郁哉  
▶ 二塁打…(12区)佐々木俊耶、(11区)千葉郁哉



令和初の年に王者となった12区のメンバー

▽ 敢闘賞 千葉郁哉(11区)

▽ 打撃賞 千田竜也(12区)

▽ 優秀選手賞 佐々木一(12区)

▽ 最優秀選手賞 千葉疏宇成(12区)

【個人賞(敬称略)】

▽ 準優勝 11区

▽ 優勝 12区

▽ 第3位 8区、14区

【チーム成績】

8月15日の決勝戦には12区と前回準優勝の11区が勝ち進みました。試合は3回に11区が2点を先制。リードを許す形となった12区でしたが、最終回に打線が爆発し、一気に4点を奪い逆転に成功。その裏の11区の猛攻を押さえ込み、70回大会で見事初優勝を勝ち取りました。大会結果は次の通りです。

12区が悲願の初優勝

Interview



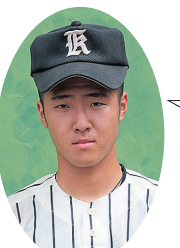
千葉琉宇成さん (12区)

「今大会は接戦が多くて緊張しましたが、楽しんで試合をすることができました。」



富士 大成さん (11区、平中3年)

「純粹に楽しかったです。自分たちに足りない部分を実感した大会となりました。」



伊藤 太一さん (21区)

「高校野球と違う面白さがあり、みんなと一緒に楽しんでプレーができました。」



鈴木 陽太くん (1区)

「パパのユニフォーム姿がかっこよかった。ホームランを打ってほしかったです。」

町内野球大会歴代優勝・準優勝チーム

平成	大会数	優勝	準優勝	平成	大会数	優勝	準優勝
1年	40回	11区A	9区	16年	55回	13区	8区
2年	41回	21区	14区	17年	56回	9区	13区
3年	42回	9区	11区A	18年	57回	9区	15区
4年	43回	21区	11区A	19年	58回	13区	7区
5年	44回	11区A	大佐南	20年	59回	11区	8区
6年	45回	13区	21区	21年	60回	9区	13区
7年	46回	13区	18区	22年	61回	9区	8区
8年	47回	11区	13区	23年	62回	8区	9区
9年	48回	8区	14区	24年	63回	7区	11区
10年	49回	11区	9区	25年	64回	11区	14区
11年	50回	21区	13区	26年	65回	11区	14区
12年	51回	8区	11区	27年	66回	9区	12区
13年	52回	11区	14区	28年	67回	11区	12区
14年	53回	13区	9区	29年	68回	11区	12区
15年	54回	8区	13区	30年	69回	14区	11区

※昭和時代の記録については、記録がないため不明。

**70回目となる記念大会**  
町内野球大会は、野球競技の振興と町民の親睦を図ることを目的に開催され、「お盆野球」の名称で親しまれている町の夏の恒例イベントとなっています。その歴史は古く、戦前から毎年開かれており、今年で70回目を迎える大会です。  
今大会では行政区単位を基本に中学生以上の町民、町出身者、町内在勤者で編成する14チームのほか、70回を記念して平泉中学校生徒徒による1・2年生合同チームと3年生チームの2チ



記念大会に合わせて新調した優勝旗

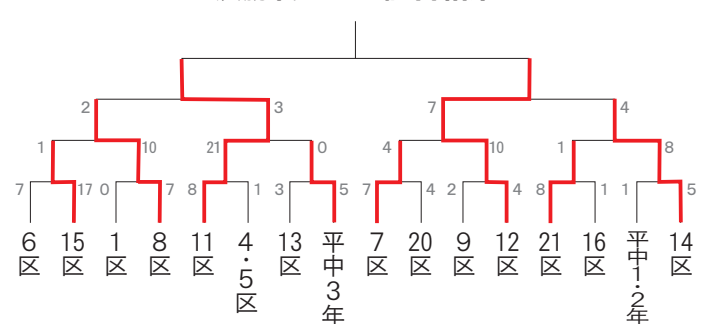
ムを含めた全16チームが出場。トーナメント戦で、70回記念として令和初の優勝を懸けて各チームで争いました。

**野球を通じた交流**  
大会は8月13日から3日間にわたり、町営長島球場で開催。どの試合も70回の節目にふさわしい白熱した試合が繰り広げられました。  
大会は真剣勝負を楽しみだけでなく、野球を通じた交流の場ともなっています。町内在住者と帰省者が久しぶりに再会し、一緒にチームで汗を流し、勝利に向かって力を合わせることで地域内の交流を深めています。また各世代が一堂に集まるのも魅力の一つ。中学生、高校生、大学生、社会人などさまざまな世代が一緒にプレーするため、親子や兄弟でバッテリーを組んだり、対戦したりするなどお盆野球ならではの面白さがあります。  
町野球協会の齋藤清壽会長は「町内野球大会は70回続いてきた歴史ある大会。時代に合わせて少しずつ様変わりしてきて、現在の行政区対抗となった。現在全国的に野球人口が減ってきているが、やはり野球は王道のスポーツ。開催期間がお盆中のため忙しいが、選手だけでなく地域住民なども楽しみにしているため、年に一度のこの大会を今後も継続していきたい」と大会への思いを話していました。



今大会では中学生チーム対行政区チームの世代を超えた対決も実現

決勝戦までの試合結果



21区チームの伊藤太一選手。今年の高校野球選手権大会手県大会では一関工業高校の1塁手として出場し、盛岡大学附属高校から同点ホームランを打つなど活躍した